



2ページ前に移っていたヘリテイジの現在の姿。仲間やお客さんたちのツーリングやキャンプなど、18年間の「走り振」が溜まったダントツに格好良い1台である。

開店1周年を記念してお客さんとキャンプツーリングに。「場所は忘れたけどジンギスカンがうまかった。」



アロートライブといえはウォレットを革製品もそうだが、やはり「矢張り」を模したシルバーが思い浮かぶ。



「シルバーは見よう見まねで6年ほど前から始めたんです。本当はちゃんと勉強した方がいいんだろうけど、とにかくなんでも自分で試したくなっちゃうんですわ」

習うより慣れる……とは少し違っかもしれないが、矢部さんの作るモノが繊細ながらもどこか無骨で野性味を持っているのは、きっとそこら作り始めの

「だから完成したモノはどうしても「超がつくほどの格安製品になっちゃいますね。でも時間をかけた分を時間工賃みたいに上乗せすることはできないし、したくもない。まあ、だからだぶん時給200円くらい(笑)」

「それでも「やり方」は、はやめな。」「製品を渡した時、お客さんがものすごく笑顔なんです。綺麗事を言わずに、やがてその表情で全部の苦労が報われますよ」

来店時やミーティングなどで、バイカーたちからの「使い続けて良かった」という反応に接するたび、その思いはより一層強くなる。「無理にオリジナリティを出そうとして人のやっていないことはやりやると、そのモノ本来のカタチを崩し過ぎて……それが格好良いかといえは僕はそうとは思えない。お客さんの要望には応えたいけど、あまり妙なモノ作って「アロートライブがこんな変なモノ作ったの」って思われるのはイヤだ」

限られた範囲の中でも「まだ何かきつとある」と作業台に向かい口を。



(上段：左から右へ)「アロートライブ」初期のウォレットと現在矢部さんが使っているスタッズウォレット&シルバークーチェーン。キーフックはハンドメイドシルバーSフック(コンチョ付タタキ大)。矢部さんの普段の腰まわり。祖父から父へ、そして息子である矢部さんへ……と3世代続く歴史ある革ジャン。デンガロンハットは季節に合わせていくつか持っている。(中段)コンチョベルトに、通称「タタキヤジリ」のハンドメイドシルバーバックルを合わせた。(下段：左から右へ) シルバー灰皿、シルバージッポ&レザーケース、携帯用ルーペ、シルバーのヤジリチョーカー。商品名「ファンキー」。以上すべて矢部さんの私物。

